

スマートシティの実現に向けた技術提案書

提出年月日: 2021 年 10 月 19 日

提案団体名: アマゾン ウェブ サービス (AWS)

○提案内容

(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等 ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください	
技術の概要・実績等	技術の分野
AWSは、スマートシティプラットフォームの構造について、主に「入力(Inputs)」、「処理(Process)」、「出力(Outputs)」の三つの要素から説明することが多い。 「入力」では様々なソースから都市データを収集する。データソースとして、市や政府が保有する内部データ、大規模にデータを送信するセンサーやIoT、市が提供するオープンデータ、モバイルアプリやSNS等から市民が提供する市民データ、そして政府や企業の外部データ等がある。 これらのデータの取り込みや「処理(収集、分析、計算、保存等)」をAWSがクラウドインフラとして提供する。AWSクラウドは、少量のデータから始めて、何百万ものデバイスやメッセージに対応できるように拡張し、使用した分だけ支払うことができる。 AWSはスマートシティソリューションを支える様々なサービスを提供しており、サービス事業者はこれらのサービスやクラウドを活用し、独自のソリューションを市民に提供する。AWSのスマートシティへの活用分野は公共安全や都市管理、投票、医療、交通分野など多岐にわたっている。	6
(2) (1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ ※課題については、別紙の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください	
解決する課題のイメージ	課題の分類
AWSのスマートシティ事例は、こちらの公式ページで随時追加・アップデートがなされている https://aws.amazon.com/government-education/city-transformation/ 以下、1例として、シカゴ市の事例を「課題解決のイメージ」として、記載する。 ”米国シカゴ市「Open Grid(オープングリッド)」は、行政・事業者・市民の共創に基づく都市に関する情報提供プラットフォームである。このサービスは、AWSの情報インフラとAPI等を基盤にしている。行政はオープンデータを提供し、民間が主体となり、市民からの要望に応じてアプリケーションをつくる。そして、市民側は必要な情報をいつでも閲覧することができる。必要なサービスがなければ、自ら開発することもできる。市民はこのプラットフォームを利用し建築許可、道路工事の状況、衛生検査の結果、犯罪の発生率や事故による交通網の乱れ等、都市に関する情報についてワンクリックでアクセスすることができる。”	キ
(3) その他	

※(1)(2)について、複数ある場合は項目毎に対応の記載をお願いします。

※既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、別途そのプロジェクト単独での提案も可能です。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
アマゾン・ウェブ・サービス・ジャパン パブリックセクター	小木郁夫	090-8922-2630	aws-ipps-capture@amazon.com